



# 廓・十三夜あたり

5月25日

Sudden Fiction Project

高階 經啓  
hirotakashina

## 5月25日のおはなし「廓・十三夜あたり」

---

見上げるとほとんど満月なのでなるほどと思う。足元にくっきりと影が落ちているのはこの月のせいだ。夜だというのに影ふみでもできそうな案配だ。十三夜だろうか十四夜だろうか、あんなに月が高く上がってるということはすっかり夜も更けたということ。おいらはぶらりぶらりと歩いて行く。酒も入って気分もいい。懐は寒いが、何、かまうものか。これから散財ってわけだなし。ぶらりぶらり、おいらは歩く。月をよく見りゃ珠のよう、つまんで主に贈ろうか。口からでまかせ出鱈目に歌っていると、呼ぶ声がする。

「見番、おう。見番」

「誰だ」

「そちは見番であろう」

「あ。お侍様で」

皓々と照らす月明かりに目が慣れたせいで暗がりの様子がよく見えぬ。おかげで相手が武士だということに気づかなかった。あやうく無礼打ちにあうところだ。気分良く飲んだってのに最後に切り捨て御免はそれこそ御免被りたい。

「何で御座いましょう」

「そちは見番かと聞いておる」

「へ。さようで」

「見番は花魁にも顔が広かろう」

こういうことはたまにある。吉原では芸妓の取り次ぎも送迎もおいらたち見番の仕事だ。芸妓に近けりゃ、こっそりことづてなんかも頼めるんじゃないかって思われるらしい。花魁に会いときゃ座敷で言えてなもんだが、そういう手順を踏めない御仁も出てくるわけだ。

銭もないくせに通い詰めて身上潰して、揚げることも揚がることもかなわなくなって、それでも花魁の顔が忘れられねえって奴らがあれこれ無い知恵を絞って思い付くのがおいらたち見番だ。下っ走りみたいな奴らだろうから何を言いつけても構うめえ、金もかからず花魁に取り次げて好都合。そんな風に思うらしい。

冗談言っちゃいけねえ。おいらあ、こう見えても吉原の要だ。待合、料亭と置屋と、どのひとつも成り立たねえ。おいらたちがつないで世話して案分してようやく廓が回るんだ。面倒が起こっても見番が間に入る。身体も張るし知恵も使う。廓のためなら後ろ暗い仕事で手も汚す。誰が吉原を支えてると思ってやがんだ。

と腹では思うが、もちろんそんなことはおくびにも出さない。

「顔が広って程のこともありやせん」

「そうは言っても親しく口をきく花魁もおろう」

「そういう見番もおりやすが、おいらはそういうのはからっきしで」

「夕霧を知っておろう」

夕霧と来やがった。そりゃ、お武家様が腰抜けになるのもわかる。吉原に何年歴史があるか知らないが、古今東西、後にも先にも夕霧太夫みたいな花魁は出ないだろうって上玉だ。こともあろうに夕霧に声をかけようたあ、身の程知らずにもほどがある。

「太夫の名前を知らない者は廓にはおりやせん」

「そうではない。夕霧と懇意ではないかと聞いておる」

「滅相も無い」

「そうなのか」

「そうなので」

「使えん奴だ」

「ご勘弁を」

何を頼むつもりだったか知らないが、おいらじゃ役に立たねえと合点したらしく、お侍はまた影に身を引っ込める。夕霧ほどの花魁になるとどの見番でもいって訳にゃいけないことはわかるらしい。ああやって見番を次々につかまえてことづてを頼もうってのか。言っちゃあ悪いがみっともないことおびたしい。

「ちゃんちゃら可笑しゅうて、

臍が茶を沸かしちまわあ。

暗闇ン中から声かけちゃ、

届かぬ月に恋い焦がれ。

歌っていると恋女房が声をかけてきた。

「なんだいまえさん、ご機嫌じゃないの」

「おう。帰ったよ」

「すっかり飲んじゃって。やな人だよあんたは」

「向島の佐平と久しぶりに会っちゃってよ」

「あちきより佐平さんがいいの、憎らしい」

「よしなよ座敷じゃねえんだから」

「あい」

「くっくっく。座敷で思い出した。くっくっく」

「何が可笑しいのさ」

「また夜道で呼び止められたのさ。おまえにことづてがあるってよ」

(「見番」 ordered by Mon\_a\_mi-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 新作スタート。お題募集中。

---

2011年10月1日。

Sudden Fiction Projectの新作発表が始まりました。

1日1篇ペースをめざしていますが、これはどうなるかわかりません。  
毎日、その日のお題を見て、いきなり書き始めていきなり書き終わる。  
即興的に書くSudden Fictionをこれからお楽しみください。

お題募集中です。

「[急募！お題](#)」のコメント欄で受け付けています。  
どなたでも気軽にご注文ください。初めての人、大歓迎です。

(お題の管理上、TwitterやFacebookでは見逃しがちなので、  
どうか上記コメント欄をご利用ください)

それではこれからしばらく新作のシーズンをお楽しみください。

※発表済みの作品をご覧になりたい方は  
「[SFPインデックス \(ただいま作成中\)](#)」  
をご活用ください。

廓・十三夜あたり

<http://p.booklog.jp/book/37392>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/37392>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/37392>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.